

平成２７年度 第３回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 平成２７年１０月２１日（水）午前９時３０分から午前１１時４８分

【場 所】 宗像市役所本館 ３階 第２委員会室

【出席者】 宗像市長 谷 井 博 美
教育委員 川 上 美 子
教育委員 中 岡 政 剛
教育委員 宮 司 葉 子
教育委員 白 石 喜久美
教育長 遠 矢 修

【その他の出席者】 教育子ども部長高橋勇次、子どもグローバル人材育成担当部長清水比呂之、市民協働環境部長福崎常喜、文化スポーツ担当部長鶴英樹、市民協働環境部理事兼文化スポーツ課総合スポーツセンター建設準備室長磯部輝美、教育子ども部主幹指導主事齊藤智恵美、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事西島潔、教育政策課指導主事高木陽一郎、教育政策課指導主事守浩一郎、秘書政策課長長谷川勝憲、学校管理課長竹下俊史、子ども育成課長中野万由美、子ども育成課社会教育主事久保謙司、子ども育成課社会教育主事薄伸也、図書課長長谷川愼、文化スポーツ課長岡田光晴、コミュニティ協働推進課参事村上治彦、教育政策課政策係長許斐知加、秘書政策課秘書政策係長飯野英明、教育政策課政策係企画主査舩越健樹、教育政策課政策係主事川原由梨乃、教育政策課政策係主事八木孝平

１ 開 会

【谷 井 市 長】 ただいまから平成２７年度第３回宗像市総合教育会議を開催します。

【教育政策課長】 本日は４つの協議テーマがあります。テーマごとに担当から説明を申し上げたのち、約１０分程度の協議、意見交換を行ってまいります。次年度以降の各事業の方向性につきまして意見交換をお願い申し上げます。それでは協議に入ります。まず協議事項第１項目目「ＩＣＴ教育について」概要説明を高木指導主事より申し上げます。

２ 協議事項

（１）ＩＣＴ教育について

【高木指導主事】 ＩＣＴ教育ですが、ＩＣＴ機器を使う事が目的ではありません。平成２７年度宗像市学校教育アクションプラン２０１５の自立しかかわりを求める子どもの育成を実現することを狙いとしております。そのための指標として、全国学力学習調査５ポイント以上アップは、ＩＣＴ以外小中一貫でも共通して目指しているところですが、授業が楽しい児童生徒９０％、授業が分かりやすい児童生徒９０％、学校ホームページの作成と月２回の更新、ＩＣＴ機器活用経験のある教員１００％という指標を設けております。児童生徒の実態から、意欲、やる気、活用力、基礎力、社会性、道徳性を伸ばすことによって今年度の指標を達成したいと考えております。そのために教育委員会といたしまして「児童生徒のＩＣＴ活用能力、及び情報モラルに対す

る教育の実践」、「教員におけるＩＣＴ活用の充実」、「校務の情報化による校務事務の効率化」、「教育の情報化を支える基盤、体制づくり」、この４つの視点から積極的にアプローチしているところでございます。それぞれの項目について詳しく説明申し上げます。まずは「児童生徒のＩＣＴ活用能力、及び情報モラルに対する教育の実践」です。通常よりＩＣＴ支援員、指導員による情報教育の支援、さらには児童生徒、家庭、地域への情報などの啓発、総合的な学習におけるＩＣＴ能力の向上を行ってきているところです。本年度これに付け加えまして、市による児童生徒の発達段階ごとのＩＣＴ活用能力の明確化を考えております。小学１年生から中学３年生までの間にはどのような情報モラルをつけるのか、また活用機能を付けるのか市による指標を出すことによってそれぞれの学校に活用しＩＣＴ教育推進を図ろうと考えているところです。続きまして「教員におけるＩＣＴ活用の充実」についてご説明申し上げます。まず市主催研修会の実施と各研修会での説明です。市内全職員対象の研修会、３年ですべての教職員が出られるＩＣＴ研修会を行っております。本年度この第１クールを始めたところです。また教育大学と連携したＩＣＴ活用講座というのを昨年度から行っております。先生方がよりＩＣＴに親しめるようにという講座を開設しております。また、校内研修の充実、情報担当者による働きかけの充実を行っているところです。それぞれの学校には情報担当者というものがおります。その情報担当者が校内でのＩＣＴ教育の推進を行っているところですが、そのＩＣＴ教育の推進が適切に行われるような研修会を行っております。これは本年度東郷小学校濱尾教諭にいただいた授業です。実際に電子黒板を使った授業、この電子黒板の教材はＩＣＴ支援員との共同開発によるものです。子どもたちが問題をとらえるときに可視化して分かりやすい問題を提示しております。それと同時に電子黒板と黒板の活用というのは、電子黒板だけでは子どもたちの記憶に鮮明に残りません。そこで電子黒板のＩＣＴデジタルと、これまでの黒板のアナログの有効活用について今検証を深めているところです。子どもたちが身に付けなければいけない内容、子どもたちが覚えなければならない内容は、電子黒板に映して消えるのではなく、黒板にしっかり残して子どもたちの記憶にとどめノートに書かせることによって学力の向上を図るといような研修を行っているところです。本市はＩＣＴ支援員を配置しておりますので、短時間でもいいという事で各学校に投げかけ、このような研修ができますよというプログラムを指示し、このプログラムを提示することによってそれぞれの学校のＩＣＴ教育の推進を図っております。さらには県重点課題の取り組みでタブレット活用の在り方について今研修を進めているところです。動画を用意しておりますのでしばらくご覧になってください。これは河東西小学校で行われている授業の様子です。タブレットを活用し、子どもたちは理科で蝶々の羽について学習しています。２人１組でタブレットを活用し、話し合いながら、蝶々の羽はどこについているのだろうという事を今予想しております。この後授業では子どもたちが予想結果を電子黒板に投影し、それぞれの予想を交換し、実際に子どもたちが蝶々を観察するという内容でした。子どもたちの情報を集約できるというＩＣＴの良さを生かした実践です。これ以外に、体育の授業でタブレットを使うやり方、これは自分たちが飛んだ跳び箱の様子を実際に動画で見て、足や手の付き方がここだよという事をお互いに見ている様子です。台風についてアメダスと台風の経路を比較しながらみんなで考えているところです。どのようなタブレットの使い方が有効なのかについて検証を進めているところでございます。続きまして「校務の情報化による校務事務の効率化」です。先生方今非常に忙しい中で教材研究を行っております。その上、様々な事務、あゆみの記帳などありますので、事務を少しでも軽減しようと校務支

援システムの導入を検討しております。校務支援システムを導入することにより先生方の教材研究の時間が増え、ひいてはこれが子どもたちの学習の効率化またはより分かりやすい授業に繋がっていくと考えているところです。またICT活用報告につきましては先生方のデスクトップ上から今年度は活用報告をできるようにするなど簡素化を行っております。このようなICT教育の導入により、教師は子どもが興味を持って授業を受けていると感じている教師は約94%に上っているところです。様々なICT機器を活用することにより子どもの顔が上を向く、または非常に注目して授業を受けることができるという効果を感じております。さらに子どもも約81%の子どもがICT機器を使って説明するのはわかりやすいと感じています。多くの子どもの手が挙がりICT機器を手元で操作することによって何度も再生でき、それが子どもたちの授業の分かりやすさにつながっている等々のことが考えられます。今後の計画ですが、まず校内LANの整備につきましては、現在すべての校内LANの整備が終わり、タブレットを導入している2校に無線LANの整備を始めているところです。また校務用パソコンにつきましては、先生方が使用されているパソコンですが、今後更新の時期が近づいていますので更新しなければならないと考えております。電子黒板につきましては、今現在75台の配置を終えているところです。現在の75台の配置で1校につき約4台の配置が終えているところです。先生方の間では今この電子黒板の活用が積極的に進みつつあるところです。積極的に進んでいる学校ではさらに電子黒板の配置が欲しいと声も上がっているところです。今後どのような導入計画をすればいいかという事も考えております。また、電子端末、タブレットにつきましては、日の里中学校、河東西小学校2校への配置が終わっているところです。学校ホームページについては本年度から学校でもさらに更新が簡単な設計に変えております。河東中学校、玄海中学校におきましてはほぼ一週間ごとに更新を行っているところですが、まだ活用が進んでいない学校もありますので、今後働きかけたいと考えています。

【谷 井 市 長】 ICT機器は全校早くから入れております。タブレットは非常に高価なこともありまして2校しかないわけですがけれども、先生、あるいは子どもたちも電子黒板、タブレットに関心があるようです。これらを踏まえ課題について協議したいと思います。

【白 石 委 員】 ICTを利用した授業の明確さと鮮明さがすごく授業効果として表れていると感じているところです。予算面をみながら、台数を増やし効果のある各学校への配置をできるだけ早くと思うところです。しかしながら、黒板を生かした教育もとても大切なことだと思いますので、併用しながら、なおかつ利用価値が表れるような方法を模索すればと思っています。

【宮 司 委 員】 電子黒板は各学校についているという事でタブレットに興味がありまして、ノートだけだと担任の先生が児童生徒がきちんと書いている、理解しているかが分からないと思うのですが、タブレットだとボタンひとつでタブレットに書いた全員のものを映し出すことができ状況がすぐ把握できていいなと思っています。ちなみに日の里中学校、河東西小学校にタブレットは何台あるか教えてください。

【高木指導主事】 現在のところ両校とも50台です。

【宮 司 委 員】 1クラスが使うとほかのクラスが使えていないという事ですね。順番に使うのを待っている状態ですか。

【高木指導主事】 はい。現在のところ1人1台使うと1クラスです。ただ使い方にもいろいろございますのでグループで使えば複数で使う事も可能です。

【川 上 委 員】 私は以前ＩＣＴ企業に勤めておりましたので学校現場がなかなかＩＣＴ化されるのが遅いなと思っていましたが、最近はずごく進んできたと感じています。電子黒板は先生たちが見せる教材を工夫されるようになって、子どもたちの興味関心が非常に高まり集中力も上がっていると感じています。ＩＣＴになって一番いい点は、先生たちが作った教材を、他の先生も使えるのが非常に容易になっていると思います。今のところまだ学校内の教材開発にとどまっているので、データ化されたことによって、教材がどの学校でも使えるようにサーバーを配備してもらえればどんな状態からもアクセスできて、先生たちがサーバーから教材を使うことが可能になると思います。そういう点ではこれから先、楽しみな部分が残っていると思います。先生たちが使いたいと思われるように設計することがまず重要なと思います。

【谷 井 市 長】 このことについて、教育委員会ではどう考えますか。

【高木指導主事】 川上委員がおっしゃった通り、ある学校で作成した教材を違う学校の先生が使えたらいいと考えています。教材開発の時間の短縮も図れますので、サーバーの構築費用等も含めて検討していきたいと考えております。

【谷 井 市 長】 その結果は報告してもらいたいです。我々には説明責任がありますので、そういう成果や実績が出ていることが大事だと思います。

【中 岡 委 員】 電子黒板やタブレットを始めその他ＩＣＴ機器の費用対効果はどうなのでしょう。例えば学力についてこれを導入したからどれだけ成績が上がったかという検証は難しいと思います。ただ私たち教育委員として学校を訪問した時に、授業でタブレット、電子黒板投影機等使った子どもたちをみているとものすごく真剣なんですね。しかし、学習の中で聞いて書く、見て書くというところあたりは絶対に外せないところだと思います。それと私は将来的にタブレット１人１台の時代になると思っております。しかしタブレットは高価なものですので、ひとつのアイデアですが企業とタイアップで安価な学習用タブレットが開発されるといいのかなと。インターネットは必要ないので、学習に使うだけの学習ソフトを使うというものでいいのではないかなと思っております。

【遠 矢 教 育 長】 中岡委員をはじめいろんな意見が出ました。タブレットは２校にモデル的に入れておりますけれども今日の説明でもありましたように興味関心を高めるツールとしては有効だと認識しています。ただ費用対効果をどう検証していくのかというのが今後の課題であると思います。２校に入れておりますタブレットはキーボード付きです。パソコン教室にもデスクトップパソコンがありますので、もし将来的にタブレットをずっと利用していくと、パソコン教室が不必要になりパソコンの代わりにタブレットを使うということも想定できると思います。そうするとパソコン教室の機器更新がなくなるので、その分の費用をタブレットに使える可能性がでてきます。ご意見いただきましたので、そのあたり含めて各方面から検証し進めて行くことが必要だと思います。

【中 岡 委 員】 パソコンの操作や修理の技能に長けた先生の育成も必要ではないかと考えています。教育委員会としても人材育成的なＩＣＴ情報教育の方も考えていかないといけないのかなと思います。

（２）グローバル人材育成について

【教育政策課長】 それでは次の２項目目グローバル人材育成について議論したいと思います。

まず概要説明を薄社会教育主事と守指導主事に説明をお願いしたいと思います。

【薄社会教育主事】 グローバル人材育成について世の中で国際化が進む中、本市でもこれまで様々な取り組みがなされてきました。これらの成果を生かしつつ、さらに発展させられるようにグローバル人材育成プランを策定し事業の進行管理、全庁的なコーディネートをする係を新設いたしました。プランの中でグローバル人材像とは、ここにありますようにお互いを尊重しそうぞう力をもって世界とコミュニケーションができる人材としております。まずは子どもたちが直接外国へ行き現地の同世代の子ども達と交流する派遣事業です。これは1990年から続いておりますニュージーランド研修で、ニュージーランドに小中学生を派遣してホームステイや学校交流、個として異文化を直接体験しコミュニケーション力を養う研修で文化風習の違いを肌で感じてカルチャーショックを受けていました。語学力の必要性、コミュニケーションは言葉だけではなく、表情であったり身振り手振りを使ってやったりすることができるという事を実感しているようです。参加者の見方や考え方の広がりや深まりといった点でグローバルな視点を感じるととてもいい事業であると思っています。今年度で延べ430人程度を派遣しております。また同じような事業で高校生を対象にしたカナダの研修もございます。この事業はトヨタ自動車九州と宮若市との連携事業となり、同世代のホストバディと観光や体験活動を通してコミュニケーションをはかり外国人に伝えたい日本という事を英語でプレゼンテーションしていきます。今年は実際に50名程度の高校生に向けてプレゼンテーションすることができました。次に日本にいながら交流ができる事業です。APCCアジア太平洋子ども会議と連携で行っている小学生の日帰り交流キャンプや高校生のリーダートレーニングキャンプがあります。語学への興味関心が高まり同じグループの友達と仲良くなり継続して交流を続けている子どもたちもいます。だいたい外国人が4～6名に日本人が2名くらいの割合で交流しています。同様に南米を中心とした海外福岡県人会の子どもたちの交流をする国際交流デイキャンプというものもあります。これは小学生対象で人数の割合はちょうど半々くらいになるかとは思いますが、スペイン語・ポルトガル語が主流となり、英語をしてきた子ども達でも、言葉は通じなくても遊びや活動を通して交流ができることを実感できるキャンプです。3年目を迎えましたイングリッシュキャンプは、小学校対象の事業でALTによるオールイングリッシュの宿泊研修です。語学の興味関心を高めるための事業で小学校段階から宿泊形式で行っているのは先進的な事業です。直接の国際交流ではないのですが、人材育成、リーダー育成を目的とした事業が日本の次世代リーダー養成塾、宗像国際育成プログラムです。世界各国各界の一線で活躍されている方を講師に招き、人の生き方考え方を学ぶ事業になります。それぞれの講師が専門的な話をかみ砕いて話してくださり、また外国と日本の違いや将来に向けての気持ちの持ち方など話していただいているのが参加者の心に響いているようです。エリート教育というのではなく、見方、考え方を広げる素地を作る事業だと考えております。講義ばかりではなく、時には学んだことについて議論をしたり、自分たちの実践を発表したりする内容も含まれております。次世代リーダー養成塾ではアジアの留学生も5分の1程度参加しておりますので、毎日ハイスクールサミットを行い、ディスカッションをしています。宗像国際育成プログラムにつきましては昨年度この事業で学んだことを自分たちの課題として活動を始め学校全体に広めていったという事例もございます。このほか日常生活の中で市民がグローバル化を実感していただくためにホームステイやホームビジットの受け入れ体制を確立したいと考えております。今年はアジア太平洋子ども会議との共同事業としてホームステイ事業を再開し、今年度

はブータンの子ども大使を7家族に受け入れしていただきました。これまで庁内各課で、単発で行われていたものが係で一本化されることで受け入れ家族の把握、情報提供、協力依頼などがスムーズになっております。宗像ガイドという事業では、様々な事業で宗像にいらっしゃる外国の団体に宗像の魅力を紹介しながら交流するボランティアガイドです。観光ガイドではありませんので交流を目的に実施しております。事前に研修を行いガイドする場所内容を確認しまして当日は10人程度の1グループ日本人が2人程度入り案内しております。本年度はスコットランドのバグパイプ隊、南アフリカの高校ラグビーチーム、アジア太平洋子ども会議のピース大使に対して宗像大社の案内、赤間宿での日本文化の体験に対してガイドいただきました。今はまだ単発の事業ですので今後ガイドを登録し組織的に活かしていくこと、ガイドコースや内容を広げていきたいと考えております。最後に新規事業でフィールドワークといった体験型のプログラムで学び、情報を発信していくというものです。今年度は絵本作りを発信手段とすることでターゲットを本やイラストが好きな子どもたちにしております。市内の中学生が作成した本を市内の学校に配置することで歴史への興味がさらに次につながることに期待しております。そのほかの取り組みといたしまして組織や仕組みを作っていく必要があると考えています。1つは協議会の設立です。産学官民の連携を協働することで大きな相乗効果を期待できます。また宗像にはその環境が整っております。学校企業民間等が情報交換、意見交流することで新たな事業展開、より効果の高い事業展開ができると考えられます。2つ目は事業の参加者が一回の体験で終わるのではなく、継続して学べたり、相互の交流、情報交換ができたりするようなOB、OGの組織を作っていくことを考えております。また事業の成果をアピールしていくことも必要だと考えます。現在、係のフェイスブックやホームページの情報発信の充実を図っていきたいと思っております。

【守 指 導 主 事】 私からは学校教育におけるグローバル人材育成についての説明をします。市の学校教育基本計画ではグローバル人材育成について次の3つのことをうたっています。まず1つ目は中学校校区ごとでのALTを配置し、小中一貫教育の取り組みの中で系統だった外国語教育の充実を図ること。2つ目は語学力やコミュニケーション能力を身に付けるとともに自国の文化を学び自国の文化に触れる機会の充実を図ること。3つ目は学校、地域、外部機関と協働して様々な体験活動の場を提供し国際化に対応できる人材に努めることです。宗像市では毎年2月にスピーチコンテストを実施し、中学生が英語でスピーチを行う場を設定しています。まず外国語教育の充実について話をします。宗像市では外国語教育を通して聴く、話す、読む、書く、の4技能のバランスが取れたコミュニケーション能力を身に付け、積極的なコミュニケーションを図ることができ英語が使える宗像の子の育成を目指しています。そのために小学校4年までを前期、小学校5、6年から中学校1年までを中期、中学校2、3年までを後期として設定し、英語が使えるとして子どもたちが段階的に高まるように子どもの姿を設定しました。宗像市ではすべての小学校で外国語活動を小学校3、4年から実施していますが学校の実情に応じて小学校1年からも実施できるようになっております。また小学校段階から話したり聞いたりする活動の中でアルファベットなどの文字に親しむ経験を行う工夫をしたり、中学校で豊かな国際感覚を身に付けるための体験活動を行う事で小中の学習を円滑につなぐことができるようにしています。そのために宗像市では、ALT9名やALTマネージャー1名を配置しています。7つの中学校区に一人ずつ、それと外国語活動推進校である河東小学校と、家庭、地域の活用を図る吉武小学校、及び吉武コミュニティに1名を、それぞれ専属配置を行っています。各学校でALTの効果的な

活用ができるように、中学校区を重視した配置を行うとともに、外国語活動や外国語科だけでなく学校行事の異文化理解を深めることを目的とした行事での活用も行っております。また福岡教育大学との連携プロジェクトで教育大学の英語教育講座の先生方と一緒に授業実践の研究も行っています。外国語活動では子どもたちが外国語活動でコミュニケーションをとるための明確な目的をもって活動ができるような場面設定を工夫し、担任とALTが協力して授業を行うようにしています。最後に自国の文化を学ぶ取り組みについて説明をします。7月に神宿る島沖ノ島と関連遺産群が世界遺産候補に決定したことを受け、今後、学校教育の中でも世界遺産について学び地域への愛着を深めていく学習に取り組んでいく必要があります。先日校長、教頭の代表者をメンバーとしている学校教育研究協議会において世界遺産学習の今後の方向性を協議の場を持ちました。どの先生方も世界遺産学習の必要性を感じておられ、たくさんの前向きな意見が出てきました。それを受け今後ワーキングチームを立ち上げてモデルカリキュラム等の作成に着手して行くことになりました。以上でグローバル人材育成についての説明を終わります。

【谷 井 市 長】 宗像市では従来からALTを配置して英語教育に力を入れていて、この宗像市には大学の留学生あるいは外国の方が住んでいます。課題もやはりあります。事業がどれだけの形で効果的になっているかと、ソフトハードに費用対効果が必ずで、抽象的じゃなくて出さなくてはいけない。特にソフトの方は非常に判断しにくいのですが、それはそれでいいと思います。国も英語教育を本格的に導入するという話も出ていますので、本市としては力を入れていきたいと思います。

【白 石 委 員】 グローバル人材育成についてということで、日本は島国だったためかバイリンガル教育に薄いような気がします。この部分をどうしていくかという事が今回大きな課題で、宗像市も、それから国全体もそれに向かって進んでいるところであると思います。語学力においては、先進国にしてはあまりにも私を含めてですけれども、英語力が薄いなと思います。市は素晴らしいものをたくさん持っているにもかかわらず、アピール力が少ない。先日教育委員会でいろいろ説明を受けて、今やっていることで十分じゃないかと思う事が多々あるんですね。でもやはり予算面のことをお話されると小さなことからはじめないといけないかなと感じています。

【川 上 委 員】 まず学校教育で小学校にALTが来られてとても子どもたち反応が良いです。小学校の子ども達には英語を使うという事は楽しいという事で位置づけられていると思うんです。中学校に入るとそれから発展して教科になるのもっと複雑な読み書きが増えてくるわけですが、社会教育のグローバル人材で用意されたプログラムが非常に生きていると思います。どんなことでも一緒だと思うのですが、学校で習ったことを生かすためには自分でいろんなところに入っていかなければ試すことができないのではと考えています。各事業に参加した子どもたちがその時の経験を生かして何らかの形で英語を生かしたり、グローバルな視点を生かして社会に出たりそういう事を追跡していくというのも一つの評価のポイントになるのかなと思います。経験して自分の考え方が変わったとか、友達に対して積極的になれたとかそういう小さな変化も子どもにはすごく大きな変化だと思いますので、そういうのも併せて評価していけたらと思います。

【中 岡 委 員】 ALTに関してですが、英語の授業だけではなく日常的な挨拶や遊びとか、そういった中で実際に触れ合うという気楽な感覚で英語をしゃべってみてという取り組みが学校にとってもうれしいことではないかなと感じています。また、子ども達もうれしいことではないかなと思いますので、地域の中にALTが入っていったということも進めていただければと思い

ます。それと、ニュージーランドの関係ですが、エリートを育てているという事ではなく、それを使って広げていくという考えも必要なのかなと思います。スピーチコンテストも小学校では学校で選抜的なものをして、その代表がコンテストに出てくる体制がつけられ、たくさん子どもたちがこのスピーチコンテストに出るという事を目標にしてくれるといいと思います。

【谷 井 市 長】 学校教育であれば無償で市の方からやれるのですが、社会教育でやる場合は一定の制約をかけなくては行かないですね。学校教育でやるならばそれは公費でやってもいいですがやり方が難しいですね。だけど広く浅くでもいいからやるというのでもいいのかなと。社会教育で実施する際の参加費については検討しなければなりません。厳しい財政状況の中、予算も限られています。行政ではなく民間にやらせておけばいいという意見も出てきます。このような状況で、グローバル人材育成の在り方について考えていかないかなというのが課題です。

【子どもグローバル人材育成担当部長】 あの社会教育という立場からのグローバル人材育成という事になるんですけれども、その中でいろいろなメニューを提供することによっていろんな人たちが参加しやすいようなプログラムを設定したいと思います。参加費については参加者の経済状況に合わせた減免措置等も検討していかなければと考えております。

【遠 矢 教 育 長】 先週、九州地区の都市教育長会があってこの中でも議題の一つとして社会教育の他市町村の海外派遣事業の事例が紹介されました。基本的に社会教育の中でやる分には、ある程度の受益者負担というのが原則で、市町村が負担する場合には概ね2分の1というのが妥当な考え方であると話がありました。参加費については、今後の検討課題だと思います。

【谷 井 市 長】 学校教育での問題は先生が英語をしゃべれない。ALTは主ではありません。ALTで英語に興味を持たせるというのはいいことだと思います。しかし教育として教えていく場合、先生たちが質を上げる研修会なり質の向上を考えていただきたい。グローバル人材の育成を施策であげていますので、この件については次回以降も論議したいと思います。

（３）保幼小連携、小中一貫教育について

【教育政策課長】 それでは保幼小連携、小中一貫教育について説明を久保社会教育主事と西島指導主事より説明を行います。

【久保社会教育主事】 保幼小連携の取り組みについて説明します。市は子どもの健やかな成長を期待して、家庭や地域社会を含む0歳から小学校就学前の幼児教育に関わる全ての機関を対象とした総合的な幼児教育の指針として宗像市幼児教育振興プログラムを策定しています。現在は平成24年度から第Ⅱ期の進行プログラムに沿って進めています。幼児期は心情、意欲、態度、それから基本的生活習慣など、小学校のための準備期間だけではなく、人の一生において生涯の人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。そのことを十分認識したうえで幼児教育振興プログラムでは育てたい幼児像を3つの共通目標を明らかにして幼児教育の充実を図るため6つの基本施策を重点的に実施しています。中でも基本施策の2つ目発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実に向けて、保育所幼稚園の幼児教育の成果を小学校生活に活かせるよう、幼児教育と小学校教育との連携接続の強化を図っています。そのためには保育所、幼稚園と小学校との相互理解を深めることが最も重要であると考えています。では保幼小連携の取り組みについて特徴的なものを5つ紹介します。先ず統一入学説明会、体験入学についてです。宗像市では小学校協力のもと入学説明会を2月の統一日に実施、子どもたちの体験入学も実施しています。このことに

より年長児が保育所幼稚園にいないことから年長児担任の先生方が学校へ訪問しやすくなり、小学校での体験中の幼児の様子を見たり小学校の子どもの様子や、小学校の先生方の指導の様子を見ることができるようになり、小学校に向けての年長児への教育や保育に反映させることができ、小学校への円滑な接続ができると考えております。また新一年生になる子どもたちにとっては小学校での体験や交流ができ小学校入学への安心感に繋がったり翌日保育所や幼稚園の年長児クラスで子ども同士の話題に小学校が出ることで、クラスで同じように小学校への意欲を高めながら子どもに関われるなど円滑な接続が期待されます。小学校でもお世話をする5年生の姿から最高学年になる自覚や成長を感じると大きな評価をいただいています。次に保幼小連携の保育参観について説明します。宗像市では平成24年度まで管理職の園長先生、それから校長先生を対象とした保幼小連絡会を年に2回程度実施してきました。それを幼児教育研究会で見直し、平成25年度から管理職対象の保幼小連絡会を1回、保育所幼稚園小学校の保育士教員を対象とした保幼小連絡会を2回年間計3回のうちの保育士教員向けの保幼小連絡会で実施し始めたのがこの保育参観でございます。保育参観では、保育所幼稚園における保育士の子どもへの関わり方、言葉かけの仕方などの視点で参観してもらい、参観後は保幼小の教諭が入り混じってグループを作り協議をしています。大きな成果としては、互いに顔を付け合せて話すことで、お互いの違いや思いを共有できていることです。保育士、教員が知り合う事で園や小学校に互いに行きやすくなり、交流しやすくなることも期待しています。保育参加や先生方の意見交換の様子に参加した人だけでなく、広くしてもらうために保幼小連携便りもこの保育参観を契機に発行を開始しています。またこの保育参観を実施することで共通の課題も明らかになりました。それは子どもたちをどこまで育てればいいのかかわからないと、宗像市の子どもを小学校入学までにここまで育てようという目指す子どもの姿があればという先生がたの声です。その意見を基に昨年度は水色のパンフレット「家庭向けのスムーズな小学校入学に向けて」を作成しました。この内容は平成21年度から配布していた幼児期の姿、就学に向けての内容を見直すだけでなく小学校の入学説明会の資料を市内の全小学校から集め、パンフレットをめくっていただきますと1ページ2ページ目には基本的生活習慣遊び体験人とかかわる力の項目を、3、4ページ目には小学校の学習面に関わる内容や給食に関わる内容、生活に関わる内容を加えて作り上げました。こちらは家庭で過ごすことが多くなる夏休み前の保育所幼稚園を通じて年長児家庭に配布しています。小学校に初めて入学される保護者の方からは夏休み前にこういうものが配布されたという事で小学校入学に向けた準備を意識するようになったという意見もいただいています。また、2月の小学校統一入学説明会の時にも新一年生の全児童を対象に配布し、その場で説明し活用してもらっています。次に教員向けの保幼小接続期における学びの目安についてです。この学びの目安を作成するに当たり、実働している先生方の知恵や経験を生かし共同でつくったものの方がより良いものができ、周知や徹底が図られると考え市内の保育所幼稚園、それから小学校に声をかけ、保育所幼稚園小学校から担任をされている8名の先生さらに指導主事、社教主事を含めた10名でワーキング会議を昨年度立ち上げました。ワーキング会議を進める中でそれぞれが子どもたちのために精一杯頑張っているにもかかわらず、お互いに知らないことや共通理解されていないこと、多くの課題があり、お互いの教育を理解して子どもを育てていくことがいかに大事かを再確認いたしました。ワーキング会議は計4回開催し3月4日の会議をもって学びの目安案としてまとめ上げました。その後、市教育委員会、幼児教育審議会、幼児教育研究会、管理職の保幼小連絡会で協議頂いたうえで完

成しました。学びの目安を配布する際には見方や活用法を示すプリントも一緒に配布しました。今後は保育所幼稚園では各園での園内研修での活用やカリキュラムにつないだり要録をつける際の目安としての活用をお願いや、小学校では保育要録、幼稚園指導要録が4月に配布されますのでその際に新一年生の先生に配布したり、また保育参観や小学校参観や研修会等で様々な機会を通じて活用と定着を図っていきたいと考えています。最後に2年前から開催しております保育参観の中で小学校の様子も見て意見交換したいと、毎回感想があり市でも小学校での研修ができないか模索をしていました。そんな折、昨年度策定いたしました第2次健康栄養食育プランに従って保育所幼稚園の食育実践者向けの研修会をしたいとの要望がありまして、食育をテーマに研修会を、小学校を会場に開催することができました。研修では小学校の給食の様子を参観し意見交換を通して小学校給食や食育についての理解を深めてもらいました。参加した先生方からは「座り方や食べ方スピードや量を知ることができた。」「栄養士の先生のきめ細やかな指導を見て残菜をなくそうという小学校の指導や取り組みがよくわかった。」「一年生に上がる前にできることをすぐにでも取り入れたい。」など、たくさんの感想をいただきました。各園の給食や食育に反映させることで小学校への円滑な接続ができると考えます。また給食の指導の様子だけでなく、卒園児の成長した姿を見れたこともよかったという感想もありました。来年度以降も学校給食や食育に限らず小学校での授業を参観して意見交換するなど小学校を会場とした研修会が定期的にできないか検討しています。以上5つのことについて説明させていただきました。幼稚園教育と小学校教育の連携接続の強化を図るためには、保育所幼稚園と小学校との相互理解を深めることが最も重要であると考えています。今後も相互に交流する機会を設定し、一方が他方に合わせるのではなく、お互いがそれぞれの段階を尊重する教育を目指して保幼小連携の取り組みを進めて行きたいと考えております。私からの説明は以上です。

【西島指導主事】 小中一貫教育について説明します。宗像市では平成18年度から小中一貫教育を導入しています。3ヶ年にわたる施設分離型モデルである日の里中学校区河東中校区、施設一体型である大島中校区の調査研究を始めに、平成21年度から中央中校区、平成22年度から河東中校区、自由ヶ丘中校区、平成23年度から城山中校区、玄海中校区と平成25年度までにすべての中学校区で小中一貫教育の調査研究を行ってきました。その小中一貫教育の成果として次の4点があげられます。学習規律・学習態度・学力の定着、各中学校区における指導方法の一貫、小中一貫教育推進に向けた組織体制の確立、家庭地域との連携などです。まず一つ目の学習規律学習態度学力の定着ですが、小中学校に学習中の姿勢や聞いたり話したりするときの集中度、グループ交流等が定着しており9ヶ年を通した望ましい学習基盤が成立してきています。授業においては各中学校区における指導方法が確立されてきました。城山中校区のJスタイル、中央中校区の3つのTのように各中学校区において指導方法や内容を一貫させて一単位からの指導課程についてそろえています。指導方法を一貫するために中学校区ごとに授業づくりの手引きを作成しております。この手引きを活用して先生方は共通理解を図り、日常の授業づくり生活づくりに取り組んでおります。またこの手引きや学び方チェックシートを活用して小中学校授業交流会を実施しております。このことで指導方法についての共通理解が深まり授業改善につながっております。今の小中一貫教育が充実してきた背景には組織体制の確立があります。校務会議、推進会議を中心に原案を作成し共通理解を図るために合同職員会議や研修会を実施しています。このような組織体制の充実により様々な特色ある取り組みができました。家庭、地域との連携も取

り組みも充実してきました。家庭学習の手引きを作成したり中学校の定期考査前に併せ、小中学校双方に家庭学習の強化週間を設定したりしています。保護者からのコメントをもらう事で家庭学習の習慣をつけることへの関心を深めることに繋がっております。玄海小、玄海東小、吉武小などではコミュニティ主催の学習会、日の里西小ではPTAによる丸つけ隊の取り組みが行われております。そして多くの学校で学生ボランティアによる補充学習の取り組みも進んでいます。家庭地域と連携してのぼりを作るなど、あいさつ運動が盛んに行われている中学校区もあります。保護者や地域の方とあいさつ運動をすることで子ども達だけでなく、保護者や地域の方の意識も高まっております。各中学校区で小小、小中の交流活動も行われることになりました。中学生は小学生の世話をすることでリーダーとして役割を果たしています。また小学生も憧れの存在になっております。小小の授業交流では多くの中学校区で五年生の合同宿泊体験を校区で併せて行っております。目的地を一緒にした遠足や修学旅行を行っている校区もあります。中学校に入学する前に顔見知りになることで、中1での人間関係づくりに役立っています。小学校の運動会に中学生がボランティアで参加したり中学校の体育祭で小学生が地域行事の司会進行をアナウンスしたりしております。河東中校区では生徒会児童会による子どもサミットを行っております。中学校区の課題について協議し小中一緒に課題の解決に取り組んでおります。この運動会やサミットを通して同じ中学校区の一員であるという意識を高めることができます。日の里中校区では小中合同で9年生を送る会を行っております。お世話になった9年生の最後の行事を小中で行っています。小学生は9年生の歌声の素晴らしさに感動し、自分もそうなりたいという具体的な目標を持つことができます。このような活動を通して小小、小中の交流が深まっております。今後は成果を更に充実発展させていくことが課題だと考えております。知識技能を活用しながら積極的に問題や課題解決に取り組む自立した子どもの育成と他者とかかわりを深め人間関係を身に付けた子どもの育成です。この自立とかかわりは第Ⅰ期小中一貫教育のキーワードとして進めております。今年度から学習力や学習態度の基盤に自立しかかわりを深める子どもたちの姿を求め小中一貫教育を更に充実させて信頼される学校づくりに取り組んでいるところです。今年度から日の里中校区、大島中校区、が第Ⅱ期小中一貫教育研究校として指定されています。

【白 石 委 員】 子ども家庭用、保育士病院職員向けのパンフレットを充実させていただいてこういう形で宗像市に通う子どもたちの関係が明確化されたことはとてもうれしく思っております。日々の日常や教育が大変だからと決して先生たちが何もしていないという事ではなく、幼児教育というのはとても大切な部分だと思っております。成長の過程の中でやはり三つ子の魂はかけはなれないものであり、なおかつその部分に力を入れることで今後の子どもたちの育成も学力面の向上も育成部分全てにおいてより充実した幼児教育委の時間が必要ではないかなと思っております。学びのめやすを幼稚園教育保育所の保育までおろしていただけたという事に感謝しております。

【宮 司 委 員】 小学校入学に向けてというパンフレットは、第1子の親にとって、親も子どもと同じように成長していくので、幼稚園に入るときはどうなんだろう、小学校に入るときも小学校ってどんな生活をしているんだろうと、一緒に子どもと成長して不安な時と思いますのでその時にこういうのをもらうと、こういう事を教えていれば小学校でスムーズに生活できるなというのが親もよく分かるのでこれはいいと思いました。この保幼小連絡会の意見交換をした内容を保護者にも伝えていくことができたらいかなと思っております。子どもを育てるのでは、家

庭が一番大事だと感じています。

【谷 井 市 長】 家庭教育の問題。これをどうするかというのは、市の大きな課題です。学校教育社会教育はそれなりに力入れられるけど、家庭教育はなかなか踏み込めないですね。ですから、みなさんの意見をお聞きしたかったところなんです。家庭教育の問題をどうするか、どう指導していくかが課題です。先生方も苦勞されていることだと感じています。

【川 上 委 員】 保幼小連携は、ゆっくりのペースでここまで来た歩みを知っているんですが、公立ではなく私立の幼稚園保育園という事で、各園の教育方針がありますし、最初、幼稚園の先生が小学校を見に行く、小学校の先生が幼稚園を見に行くところができず今このように連携会議が開催されているのがうれしく思います。やはり目安のパンフレットを作ったという事が非常に大きな次のステップになると思います。

【谷 井 市 長】 幼児教育が一番大事だと思いますので、学校に上がる前にきちんと家庭の中でしつけができていることが望めます。

【子ども育成課長】 幼児教育の取り組みはできるところからという事で積み重ねて実施してきました。保幼小の連携についても、今行政と保育所・幼稚園・小学校とで連携していますけれども、家庭の協力というのも必要ですので、この保幼小連携の取り組みについてはしっかりどんな動きをしているかを知っていただくという事でお手元に保幼小連携便りというのをつけております。これは昨年度からはじめまして、年間2回こういう形で連携の取り組みの内容をまとめて、現在市のホームページに載せておりますし、保幼小の先生方にもお配りしております。こちら家庭にしっかり伝えていきたいと思います。それからやはり保護者向けに対してはスムーズな入学に向けてという事でまとめて、年長児の保護者にお配りしております。ただ、パンフレットを配るという事だけではなかなか浸透しないという事は園長先生方も十分に理解されておまして、そのことを園の保護者会等でそのパンフレットを使いながらきちんと言葉で伝えていただくという取り組みをしています。保護者の家庭でも取り組んでいただきたいという事で伝えていただいております。子育て支援センター、子育てサロン等でも市では、未就学児の家庭ではこういう事に気を付けて取り組んでほしいという事をまとめましたのでぜひこれを念頭に置いてスタッフとして関わってほしいと伝えております。たまご学級は子ども家庭課と連携を図りながら行っていきたいと思います。

【中 岡 委 員】 保幼小連携の部分と小中一貫の部分、両方とも関連があると思っていますので、少しお話させて頂こうと思いますが、近くでは福津市でやっているコミュニティスクールと宗像市がやっている小中一貫教育は同じものではないかという事も聞くのですが、確かに組織等も含めて、コミュニティスクールと小中一貫教育はよく似ています。ただ、私はこの宗像市の小中一貫教育は、他のどこよりもとは言いませんけれども、優れた取り組みだと感じています。小中一貫教育ではありますが、宗像市が今進めている部分については、これは小中一貫をより確かなものにするために、保幼小中それから高校も視野に入れたそういう一貫教育という事で進められていると思います。これがコミュニティスクールとは違う大事なところではないかなと思います。つまり、学びの接続、学びの連続を幼児教育の部分から始め、保幼小から中学校へそして高校へ、さらには高校から大学での育ちも視野に入れた教育を宗像市では進めていると考えております。保幼小の連携における家庭の協力については、行事や学校の日には小学校や幼稚園、保育園にはたくさんの方が夫婦で、また、おじいちゃんやおばあちゃんも来られているのを見ますと、

そういう機会を上手に活用することを考えていただきたいと思います。学校、家庭、地域それぞれが子どもたちの成長過程に合わせた教育を一貫して進めていくという意識づけが大切だと感じているところです。

【谷 井 市 長】 私も同じで全くそうだと思います。学校教育、社会教育、家庭教育の3教育、これをどう一体的に、いわゆる私が好きな言葉で点を線、線を円にすると、教育という形の中で宗像市全体の中でうまく回転していけば、もっといい教育が出来るのではないかなと。特に先ほど申しましたように家庭教育の部分はとても難しいものがあるので、そういう面で地域が地域教育の中で関与していくし、学校の中でも関与していく。しかしそれがもう少し有効的といいますか機能的になれば、もっと効果があるんだと思います。

【遠 矢 教 育 長】 行政からパンフレット等で働きかけをしています。ただ地域や家庭の理解度というのがまだまだのところがあります。この前も学校の日に行きましたら幼稚園の園長先生たちも、学校での子どもたちの学習や生活の様子を見ていらっしゃいました。やっとお互いの窓口が開けてきてお互いの行き来ができるような形に少しずつですけれどもできてきているのかなと思います。こういった取り組みはやはり継続的に行う事によって充実につながっていくのだろうと思います。

【谷 井 市 長】 それは大変重要だと思います。行政的な立場から学校の先生に対する研修とか幼児教育に対する研修をやってもいいのではないかと思います。なんといっても幼児教育が一番最初で一番大事だと思っておりますから。ぜひそういう課題を、今一生懸命やっているのでこれをもっともっと充実させていただきたい、市長としてお願いしたいと思います。

（５）その他

【教育政策課長】 今日本来学力向上についてというもう一項目協議を用意しておりましたが、時間の関係で申し訳ございません。これにつきましては次回以降に協議したいと思いますのでご了承いただきたいと思います。その他、何かございますか。

【各 委 員】 特にありません。

３ 閉会

【谷 井 市 長】 それでは、第3回宗像市総合教育会議を閉会いたします。次回は平成28年1月19日（火）に開催予定です。議題は迫ってご連絡いたします。